

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王東小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国よりもやや低く、いくつかの課題がみられます。よい面として、読むことにおける理解力の高さがみられ、テキストから必要な情報を読み取ることに定着がみられます。一方で「書くこと」において、自分の経験や集めた情報をもとに、根拠を示しながら考えを文章にまとめることに課題があります。また、漢字の読み書きにおいて、正答率に大きな開きが見られ、日常的な復習や語彙の定着指導の徹底が求められます。
- ・算数の平均正答率は全国よりもやや低く、いくつかの課題がみられます。よい面として、計算や基礎的な問題、選択式・短答式の形式において最後まで粘り強く解答しようとする姿勢が見られます。一方、言葉や数、式を使って「なぜそうなるのか」「どのように解いたのか」の理由や求める手順を説明・表現することに課題が残ります。基礎的な計算力や数学的な概念のより確実な定着が求められます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向とみとめられる項目
「ICT 機器の高い活用度」「高い自己肯定感」「地域や社会への貢献意識」「学校図書室の活用」「高い規範意識と豊かな人間性」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「スマートフォンの長時間使用の割合が多いこと」「家庭での読書習慣の不足していること」「学級での安心して発言環境の認識が不足していること」「悩みに関する対話機会が少ないこと」「休日の自主学習習慣が不足していること」、こうした点に課題があると考えられます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・各教科で一人ひとりが自分に合った学び方を見つけ、主体的に学習に取り組める「子供主体」の授業作りを進めます。各自のペースで学べる環境を整え、基礎・基本の定着と「わかる」「できる」授業を目指します。
- ・全教科において「書く力、表現する力」の育成を目指し、理由や根拠を明確にして自分の言葉で書き、表現する学習場面を日常的に設定し、思考力・表現力を高めます。
- ・対話的な学びを通じた多様な視点の育成を目指し、ペアやグループ学習や話し合い活動を工夫し、友達の異なる意見や考えを深め合う楽しさを実感させ、安心感のある学級風土をつくっていきます。
- ・自己有用感や高い目的意識や夢を持ち続けられるよう、日頃の努力や良いところを積極的に認めて褒める指導を全校で継続します。
- ・図書室の環境整備やのびっこタイム等における読書時間の活用により本に親しむ機会を増やすとともに、ICT端末を用いた探究の学習の充実を図っていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・日々の生活の中で読書の時間を確保し、読書習慣が身につくよう、ご家庭での声掛けや本にふれやすい環境づくりにご協力ください。
- ・メディア（スマートフォンの使用・動画視聴・ゲーム）の利用ルールをご家庭で話し合い、生活リズムを整え、休日にも学習の時間を計画的に設けることで、学習習慣の定着を図っていただきたいです。
- ・その日の学校での出来事や勉強したことなどについて親子で会話をする時間をもち、「どうしてそう思ったの？」などと問いかけ、子供が自分の言葉で理由や考えを説明する機会を増やしていただきたいです。
- ・子供の持っている夢や目標、学校での頑張りを肯定的に受け止め、「あなたならできる」という安心感と自信を与える声かけをお願いいたします。